

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第11巻 第2号 (No.33)

発行日 平成28年12月1日

得意な学習スタイルに応じた支援を

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

目次:

得意な学習スタイルに
応じた支援を 1

療育プログラムのようす 2・3

コラム：ソーシャル疲れ 4

ファミリーデー
ホームカミングデー 4

教育センターからのご案内 4

師走になり寒さが一段と厳しくなってきましたが、教育センターはいつも子どもたちの元気な笑い声や、保護者の方々の和やかな交流の声で満たされていることを感謝しつつ、その声に私自身が癒されている毎日です。

10月に個人懇談が行われました。4月からの学習等の評価と10月以降の目標を中心に成長ところをさらに伸ばしていく視点や今困っていることについて懇談させていただきました。その報告を聴いていると、「文章読解(文章題)ができるようになってきた」「精神的に大きく成長し、学校で泣くことが少なくなってきた」というように子どもそれぞれに成長した姿が浮かび上がってきてとても嬉しく感じています。しかしその反面、学校では友だちに話しかけても話がかみ合わず関係がぎくしゃくしてしまったり、自分が何を要求されているのかわからず、授業がつまらなくなり不適切な行動が目立ってきたなどで学校に行きにくくなっている子どもが多く存在していることも事実です。改めて子どもたちが置かれている状況の不安定さに心を痛めることも度々ありました。教育センターでの療育の目的の一つに「地域の中で生きやすく」というものがありますが、まだまだ支援が不足していることを痛感させられます。

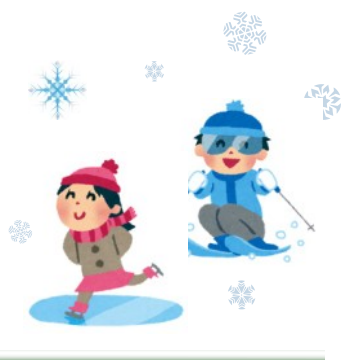
一般的な教育現場では、人による学習スタイルの違いがあまり考慮されていないのが現状です。また、子どもの自立を視野に入れての徹底指導をあまりしていないことも多く見受けられます。字が書けないから無理しなくてもいい。人とうまく話せないのはあなたの個性だから無理をする必要はない。だいたいできればいい、無理をさせたら心に傷が付くという考えをお持ちの方によくお会いします。そん

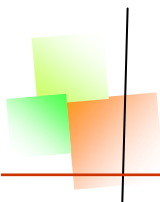
な子ども時代を過ぎてしまった時、いざ社会に出て自立しようとして困るのは誰よりも本人だということを、もう少し考慮していただけるとありがたいなと思っています。

ものの見方・考え方、文字などの見え方や聞こえ方など、学習スタイルは皆違います。それから情報の処理の仕方も違う、つまり映像のように記憶できる人もいれば、一つひとつスモールステップでコツコツ積み上げていくほうがよい人もいます。教育センターでは、それぞれ違いがあるということを前提に授業づくり、教材づくりを進めるようにしています。また、基礎学力の部分、最低でもできなければいけない部分は個々の得意な学習スタイルに応じながら、いろいろな形式や角度から課題を提供していき、習得するまで繰り返し学習ができるようにしています。

基礎学力を身につけていくためには、継続して学習に取り組める持続力や忍耐力をつける必要があります。それらの背景には、基礎体力を身につけること。たくましくぶといフィジカルな力を獲得することが大切な要素となります。そこで、どのプログラムにも体育的な活動(有酸素運動やリズム体操など)を取り入れています。運動をすることで持続力や忍耐力を養うことができます。また、運動することで脳の海馬に新しいニューロンが飛躍的に増加し、脳内ネットワークがより広く密なものになり、学びが身につくようになります。基礎学力の習得はまずは体づくりからということです。

この時期は、運動が不足しがちになります。運動など体を動かす活動を多く取り入れて、メリハリのある生活を心掛けていってください。よいお年をお迎えください。





療育プログラムのようす 【各教室・言語・ラーニングプログラムの様子】

幼児絵画造形教室

今月は絵の具の活動に取り組みました。カップの中に入った絵の具にお水を注いで混ぜていくと・・・。あら不思議！きれいな色水に変身しました。できあがった絵の具で自分の描いた絵を塗っていく姿は真剣そのものです。しばらくすると、「青と赤をまぜたらどうなるかな？」「白を入れたら？」との声が。子どもたちの「知りたい気持ち」がどんどん膨らんでいます。(本田)



よーくまぜると・・・あら！ふしぎ

言語プログラム

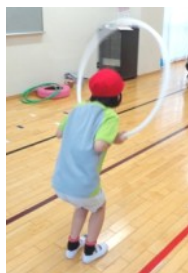
絵本やカードなどを使い、ことばをつなげて話す練習をしています。「大きい靴」など、2つのことばをつなげて話すことができるようになったら、次は「大きい赤い靴」など、3つのことばをつなげて話します。練習を繰り返すと、徐々に話せることばが増えていきます。文章で話すことにつなげていきたいと思っています。(北島)



「大きい黄色い靴」

体育教室

縄跳びの「前回しとび」で、跳ぶタイミングが早いお子さんが見られます。縄を持った手が下ると同時に跳躍してしまう感じです。縄は手が下がったあと、遅れて足元にくるので、このタイミングでは着地したところに縄が足元にきてしまいます。導入として、フラフープで縄跳びのように跳ぶ練習をすると、フープを回すことと、跳ぶことのタイミングがつかめてきました。(鈴木)



フラフープで練習

SST教室

1・2年生のSST教室では、友だちとペアになって共通点探しの活動を行っています。果物や動物などそれぞれの好きなものを1枚のシートに順番に書きこんでいき、お互いが書いたものの中に同じものがいくつあったか最後に確認していききました。この活動が気の合う友だちを見つめるきっかけや他者への興味を引き出すことにつながってくれることを期待しています。(宮川)



これも同じだね！

ダンス教室

2月に行われる発表会練習の合間に、楽器を使った表現ゲームを楽しみました。担当者が鳴らす楽器の音に合わせて手拍子をするというシンプルなゲームです。慣れてきたら楽器を見ずに音だけを聞いて行い、動きも手拍子から足踏みへ、そして即興ダンスへと発展させていきます。この活動はたいへん盛り上がり、心身のリフレッシュにもなりました。今年度の発表会は2月4日(土)2時15分からスカラーホールで行います。皆さん、ぜひ応援に来てください。(新堂)



発表会練習の様子

ラーニングプログラム

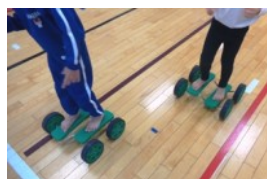
主に小学校高学年以上の子どもたちを対象に『情報の読み取り』と題して、カレンダーや時間割、料理のレシピなどから、さまざまな情報を読み取る学習を行っています。自分で問題文を読むことで文章の読解力を伸ばすという目的に加えて、身近な題材を扱うことで、机の上で学んだことが生活の中でも生きてくると考えています。(大澤)



情報の読み取り

幼児体育教室

ペダルローラーに取り組んでいます。これはバランス感覚を養う器具で、左右交互に踏み込むことで進むことができます。ペダルローラーを始めた当初は担当者と手をつなぎ進んでいた子どもたちも、膝を柔らかく使い少しずつ自分の力で踏み込むことができるようになってきました。ここでつかんだバランス感覚が、自転車や一輪車にも生きていくと思います。(久留)



ひとりのできたね！

コンピュータ教室

Wordでは表作成を、Excelではグラフ作成を行っています。表作成では、手本の通りに「月ごとに貸し出した本の数」や「保健室に来た人の数」などについて、表を作ります。Wordで作った表は、そのままExcelに貼りつけて、棒グラフや折れ線グラフにします。子どもたちはグラフの種類やレイアウトを工夫して、オリジナルのグラフを作ろうと真剣に取り組んでいます。(吉田)



Wordで作作り



【スクールプログラムの様子】

幼児 子どもたちが待ちに待ったクリスマスが近づいてきました。幼児は学年ごとにクリスマス製作を楽しんでいます。ツリーにきらきらのシールを貼ったり、絵の具を使ったスタンプで素敵な飾りを作ったり、世界にひとつしかない帽子に折り紙のサンタやトナカイ。どれもこれもかわいい作品ばかり。「サンタさん、はやくきて！」そんな声が聞こえてきそうです。(本田)



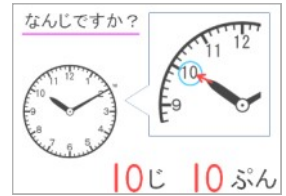
はやくこないかな、クリスマス！

2年生 12月の作品展示に向けて、図工で模写トレーニングに取り組んでいます。題材は、サンタクロースなど12月にまつわるものです。担当者の示した手順に沿って、同じ題材を描いていますが、子ども一人ひとりの味が出て、それぞれがとても素敵な作品に仕上がっています。展示されるということで、子どもたちはいつも以上に集中して作業に取り組んでいました。(宮川)



いろいろなサンタクロース

1年生 算数で「とけい」の学習に取り組みました。「短い針が3と4の間で、長い針が8だから、3時40分だ！」と確認しながら答えを書きすすめていたり、「先生、〇時になったね。」など時計を見ながら時刻を教えてくださいることがよくありました。生活の中で活用できるよう、学習単元が終わっても時計を意識できる言葉をかけていきたいと思っています。(宮下)



「なんじかな？」

3年生 体育の時間に『ステップ体操』を行っています。目標は、曲に合わせてジャンプしたり手足をクロスするエクササイズを習得することです。マットに書かれた数字や色、形を意識して、指示通り身体を動かすことは思ったよりも難しいですが、同じステップを繰り返し練習することで、2か月後にはクラスの全員がそろって一体感を味わうことができるとしています。(諸橋)



ジャンプ、ジャンプ！



廊下展示(秋のイラスト)

廊下展示(秋のイラスト) 4年生 「コスモス」「紅葉」「焼き芋」「栗」など、秋にちなんだ題材の模写を行いました。色鉛筆で色塗りし教育センターの廊下に展示しました。完成した展示を見ながら友だちの作品と比べてみたり、自分の作品を友だちに紹介したりすることで感性豊かな心を育てていきたいと思っています。12月は「2, 3年生」、1月は「1年生」の作品展示を予定しています。(藤本)

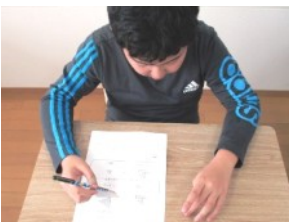
4年生 「コスモス」「紅葉」「焼き芋」「栗」など、秋にちなんだ題材の模写を行いました。色鉛筆で色塗りし教育センターの廊下に展示しました。完成した展示を見ながら友だちの作品と比べてみたり、自分の作品を友だちに紹介したりすることで感性豊かな心を育てていきたいと思っています。12月は「2, 3年生」、1月は「1年生」の作品展示を予定しています。(藤本)



リズムに合わせて

リズムに合わせて 5年生 音楽では『音積み木』を使って合奏の練習をしています。それぞれ1〜3音くらいずつ分担し、全員で一つの曲を演奏します。リズムに合わせて演奏するためには、友だちの出す音によく耳を傾ける必要があります。このことは友だちの様子や周囲の状況に意識を向けるというソーシャルスキルの練習につながっていくと考えています。(大澤)

5年生 音楽では『音積み木』を使って合奏の練習をしています。それぞれ1〜3音くらいずつ分担し、全員で一つの曲を演奏します。リズムに合わせて演奏するためには、友だちの出す音によく耳を傾ける必要があります。このことは友だちの様子や周囲の状況に意識を向けるというソーシャルスキルの練習につながっていくと考えています。(大澤)



拡大図、縮図を見つけよう！

拡大図、縮図を見つけよう！ 6年生 算数で「図形の拡大図、縮図」の学習をしました。「形は同じで大きくなる(小さくなる)」ということの理解に苦戦しつつも、以前学習した等しい大きさの比(1:2=3:6など)のことを思い出して、1cmの辺が3cmに伸びていたら、2cmの辺は6cmになるといったことを理解できました。これからも、以前の学習の積み重ねを現在の学習に活かせるよう工夫していきたいと思っています。(吉田)

6年生 算数で「図形の拡大図、縮図」の学習をしました。「形は同じで大きくなる(小さくなる)」ということの理解に苦戦しつつも、以前学習した等しい大きさの比(1:2=3:6など)のことを思い出して、1cmの辺が3cmに伸びていたら、2cmの辺は6cmになるといったことを理解できました。これからも、以前の学習の積み重ねを現在の学習に活かせるよう工夫していきたいと思っています。(吉田)



イラストで流れを確認

イラストで流れを確認 中学生 国語で古典『竹取物語』を学習しました。生徒たちにはかぐや姫の物語として親しまれている作品ですが、古文を理解することは大変です。そこで映像やイラストで物語の流れを今一度確認してから文章を読んだところ、書かれてあることを理解して、「姫は月の人だったのか？」「月の人がどうして竹の中に入ったのか？」などと自分なりの疑問を抱きながら読むことができました。(吉田)

中学生 国語で古典『竹取物語』を学習しました。生徒たちにはかぐや姫の物語として親しまれている作品ですが、古文を理解することは大変です。そこで映像やイラストで物語の流れを今一度確認してから文章を読んだところ、書かれてあることを理解して、「姫は月の人だったのか？」「月の人がどうして竹の中に入ったのか？」などと自分なりの疑問を抱きながら読むことができました。(吉田)



コラム 自閉症児の発達研究から (4)

ソーシャル疲れ

今ほど社会性やコミュニケーション能力に価値が置かれている時代はないのではないのでしょうか。それも、周囲に合わせ同調できるかどうか重要なようです。そして、それができない人は「KY」や「コミュ障」などと呼ばれ、学校では「スクールカースト」の下層に置かれてしまいます。

少し話は変わりますが、英国のEU離脱や米国大統領選でのトランプ候補の善戦などの予測で名高い人類学者のエマニュエル・トッドさんは、それらの動向の背景に「グローバル疲れ」があると指摘しています。そのひそみに倣うわけではありませんが、いま世の中に「ソーシャル疲れ」ともいうべき徴候も見え始めているように思います。人々が過剰に空気を読み合い、人間関

係の調整を絶え間なく行うことで心をすり減らしているのではないかとことです。いつもSNSで「いいね！」と承認を得ていないと不安になるという声も聞きます。一方、日頃親しくしている自閉スペクトラムの知人は、書店でソーシャルスキル関係の新刊本を見るにつけ「またソーシャルか・・・」とうんざりすると話していました。その知人の名譽のためにつけ加えておくと、とても礼儀正しく温和で感じがいい人です。

ソーシャルスキルは、いうまでもなく人と人が共に気持ちよく生活するために大切なものです。私自身も発達障害の子どもたちのソーシャルスキルの支援に20年近く携わってきました。ソーシャルスキルを学ぶことで社会生活が楽になっ

藤野 博(東京学芸大学教授)

たり、進路が開けた人たちをたくさん見てきており、その意義は否定すべくもありません。しかし、ソーシャルスキルが充実した人生のために最優先の課題かという、違うのではないかとも思います。「ソーシャル」であることばかり意識しすぎるあまり、その人らしさが損なわれ、力が発揮できないなら本末転倒ではないのでしょうか。「もしなにかの魔法で自閉症が絶やされたら、人類は今も洞窟の入り口で焚き火を囲んで暮らしているだろう」というテンプル・グランディンさんの言葉を最後に引用し、4回にわたる私のコラムの締めくくりしたいと思います。



このコラムは4回シリーズでお届けしました。

ファミリーデー & ホームカミングデー

【10月16日】 幼児と小学生のためのファミリーデーが行われました。今年の企画はドラムサークルとレクリエーション。ドラムサークルでは、のびのびとした雰囲気の中、いろいろなドラムや打楽器を鳴らして、家族で音楽を楽しみました。



【11月23日】 以前受講されていた生徒と保護者を迎えてホームカミングデーを開催しました。近況報告に続いて、生徒はボルダリングやパソコンでの名刺作りなどのレクリエーション、保護者の方々は別室で歓談を楽しみました。久しぶりに再会した友だちやスタッフと楽しい時間を過ごしました。来年も11月23日に開催予定ですので、是非ご参加ください。



武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

URL: <http://www.musashino-higashi.org>

平成29年度療育プログラムのご案内

平成29年度療育プログラムの一次募集を実施しています。受講希望の方は、申込用紙またはウェブサイトのフォームにて平成28年12月13日(火)までにお申し込みください。それ以降は、空きのあるプログラムのみ二次募集を行います。

詳しい資料を希望の方は、電話かホームページのフォームでご請求ください。ご相談や見学も承っております。